

航空機騒音下の 素朴な農家描く

英国人学者・コックスさん

11月14日



成田空港の航空機騒音に
さらされる農家の暮らし
を、映像と音で表現したイ
ンスタレーションの展不
会「気圧・成田空港に接して
生きる農民の日常生活」が

成田空港の騒音と農家の暮らしを映像と音で表現したルパート・コックスさん11月8日、琉球新報社

11日から14日まで、那覇市
の県立博物館・美術館県民
ギャラリーで開かれる。
英マンチェスター大学

ラナタ映像人類学センター
のルパート・コックス教授が
2010年、11年に成田の
農家に約4週間泊まり込ん
で撮影し、約10分間の作品
に仕上げた。80以上空を飛
行機が通過する家に暮らし
ながら、黙々と農作業する
素朴な農家の姿を描いた。
鳥のさえずりと航空機騒音
の対比が印象的な作品だ。
11年11月から12年2月に
かけてマンチェスター大学
で開催された展不会「AI
R PRESSURE」に
約5万人余を動員した。今
回はその一部を展示する。
コックスさんは成田を取
材する前の2008年以
降、米軍嘉手納基地の周
辺、北谷町砂辺などを訪れ
米軍機の爆音にさらされて
いる住民を取材している。
日本では音響環境学の専
門家に影響を受け、航空機
騒音に焦点を当てて記録を
取り続けている。
今年11月ごろに作品を公
開するために再度沖縄を訪
れる予定だ。
コックスさんは「騒音の
データだけでは人々の生活
のようすは分からない。嘉
手納の周辺ではいろんな生
活があった。成田は騒音の
問題はあるが、そこに住ん
でいる農家の『生活の音』
がある」と話している。